

中斎塾 東京フォーラム
平成 26 年度 第 7 回講話

平成 26 年 7 月 12 日
於 湯島聖堂

<論語素読>

子路 第十三

【一】 子路 政 を問う。子曰く、之に先んじ之に勞すと。益を請う。曰く、倦むこと無かれと。

子路が政治について質問をしました。孔子は「率先して働き、労わりなさい」と言いました。子路が「もっと詳しく教えて下さい」と言ったら、孔子は「お前は飽きっぽいので、飽きずにおやりなさい」と、孔子が子路にこんこんと論しているなど感じます。

【二】 仲弓 季氏の宰と為り、政 を問う。子曰く、有司を先にし、小過を赦し、賢才を挙げよと。曰く、焉んぞ賢才を知りて之を挙げんと。曰く、爾が知る所を挙げよ。爾が知らざる所は、人 其れ諸を舍かんやと。

仲弓は、子路が失敗したあと、季氏の宰相になりました。若者が宰相となったので、孔子に「どうやればよいでしょうか」と聞いたら、「役人の人選を先にしなさい。小さな失敗をしても咎めてはいけない。それぞれに才能がある人物を適材適所に置きなさい」

仲弓は「私は能力のある人物を知らないのです、どうやって能力のある人を見つけて、引き立てたらよいのでしょうか」と聞きました。

孔子は「あまり気にしなくてもよい。お前が知っている能力のある人間を選べば、お前の知らない人材は、人がほっといてはおかないものだ」と答えました。

あれぐらいの能力しかない人を抜擢するのだから、私が行けばもっと優遇してくれるのではないかと、たくさん集まってくるものであると孔子が説明をしました。

季氏の宰相となった子路と仲弓を並べて書いています。孔子より子路が 9 歳若く、仲弓は 29 歳若い。子路はその時 45～6 歳の頃で、仲弓はこれから世に出ようとする 20 代後半の若者。そういうイメージで読むとまた感覚が変わってくると思います。

昨日はある会合に出席し、東日本大震災で被災したスーパーマーケット、株式会社マイヤ社長の体験談をお聞きしました。

マイヤは岩手県を中心に展開する地元のスーパーです。マイヤ大船渡店は 5 階建てのスーパーで、そのお隣が市役所だそうです。市役所で 82 名が亡くなりましたが、多くはリーダシップを取っている方だったそうです。

スーパーマイヤは、かなりの人数が屋上に避難をして 1 人も犠牲者を出さなかったそうです。同じような建物に大津波が襲ってきて、一方は 1 人も犠牲者を出さず、もう一方は多くの人亡くなった。何故なのかは学者が来て検証してもらいたいと思いますが、こういうことは市役所の恥部になるから、なかなか話は進まないようです。

昨夜の話が頭に残っていますので、論語の「有司を先にし」を読みながら、私は「有司」で、ちょっと引っかかりました。現代に置き換えて考えてみると、もしかしたら死なないで済んだかもしれない。自分の周りに良い人材がいたら、適材適所に置くことを真剣にやっていたらと考えると、身の周りの関係者は相当助かったのではないかという気がします。

もう一度、読んでみましょう。

どうでしょうか、イメージが変わるのではないのでしょうか。

東日本大震災に関して

いままで中斎塾フォーラムの関係者を見ると、季刊誌『知足』25 号で東京フォーラムの高橋さんが、被災した女子中学生のことを書いていました。タイトルが「心のケア活動」で、その中で息の長い支援をするためにレインボーハウスをつくるという事が紹介されていました。

また猪瀬理事長が知り合いになって原稿をお願いした NPO 法人遠野まごころネット副理事長の臼澤さん。臼澤さんが季刊誌『知足』28 号で「生かされた命」というタイトルで、原稿を書いてくださっています。

改めて見直しをしてみました。津波が押し寄せてきて、自分はどのような体験をしたか。臼澤さんの原稿で非常に印象深いのは、避難所で夜中になったら肉親を亡くした中年の女性が助けると泣き叫んでいた。半狂乱になっている若い母親は、2 歳の女の子が自分の手の届くところで波にさらわれて行方不明になった。その時に何もすることが出来ないと泣いています。臼澤さんは人目を憚ることなく、ただただ抱きしめてやるしかありませんでした。生きていれば何とかなる、あなただけではなく皆同じ一緒に生きよう、と言って抱きしめたということです。

高橋さんも、臼澤さんもどちらも「ケアが大事だ」ということを書かれています。私はそこが非常に印象深く残っています。

昨晩のお話で印象深かったことがあります。

現在、被災地で物資は一切要りません。ただ、要るものは「3つあります」と言っていました。

1、国が国としての機能を果してもらいたい。何故ならば、法律の運用がどうにもならないということでした。

法律の運用、すべて平常時と同じ法律で運用しようとする。国として法律を弾力的に運用して欲しいということが、現在非常に必要だといわれている。

2、メンタル面でのケア。これは、どうしていいかも訳が分からない。どうすればいいのか、自分達でも一所懸命考えているが、お手上げ状態。

3、ソフト面の充実。特にお年寄りが昼間はニコニコしてよさそうだけれども、心が病んでしまい、見えないところで自殺をしているそうです。

日本という国は、ここら辺がどうしてもなくなったんだなと思います。

国は動かない

もうちょっと具体的に国の法律の弾力的運用について申しますと、聞いていてそんなことが起こりうるのかと思いました。

ある地域では、被災して住まいがなくなって建物を作りたいと思っても、国からは問答無用に「土地を提供しなさい」というお達しがくる。

ある程度、お金がある人や土地もある人は良いのでしょうかけれども、土地しか財産がないというお年寄りにも問答無用で、2割から多ければ3割ぐらい無償提供させられる。これは何とかならないのか。

それからスーパーマイヤさんは、お店を再建したいと思い申請すると、大店立地法かな、8ヶ月間はいろいろ調べた上でないと、お店を建築する許可は出せないと言われたそうです。調べようにも、何もないのに、そんな馬鹿な話があるのかと思いつつ、これだけの大災害だったのだから、非常時には非常時用の法律で運用してもらって、店を作らせて貰いたいと言っても、それは駄目ということでした。

ひとつひとつ聞いていると、非常事態と認識しない法律を適用し、硬直的運用ばかりで、どうにもならないで困った。でも助けてもらったのが、民間の知人・友人それから自治体の相互支援、これらの関係の方には、非常に助けられたと話していました。

スーパーが被災した翌日から、とにかく食べ物をかき集めて仮店舗を作って売り出した。売った時には、値段はあつてないようなもので店長さん達の判断で大雑把に切り下げをして売っていったそうです。有難いことに翌日から友人・知人・関係者がトラックで食料を運んでくれたと言います。これには非常に感謝したそうです。

ボランティアで来てくれる人たちで 60 歳 70 歳の人達は、トラックで荷を降ろそうとしても自分がよたよたしてしまい、なかなか荷を降ろせない。こういうことも何か考えなくてはいけないという話がありました。

あと感謝したのは、自衛隊が道を作ってくれた事はすごく助かったと言っていましたし、それから若い警察官が亡くなった人の体を一所懸命洗ってくれたことも、とても感動を覚えたということでした。

従いまして法律の弾力的な運用は、是非とも実行して欲しいということです。国という感覚で考えますと、国のことを見るのに、やはり政治家を見ます。

ハイヒールを履いてやってきた政治家がいて、まあこれはどうにもならないと嘖然としたそうですが、大勢の政治家が押し寄せて、いろいろな事を言って、いろいろな約束をしていったけれど、そのあと誰一人として来ない。でもただ一人、総務副大臣だったかな、その人だけは話を聞いたものを文章にまとめて送ってきたそうです。「今後の参考に活かさせていただきます」と書いてあったと言います。

全体的話してはありますが、スーパーマイヤさんの関係したものは、御自分の体験ですからね。自分から見て推測できるもの、自分が体験した時の話しです。

国の動きとして、心が、ものが見えなくなっていて、仕組みがきちんと動かなくなり、どうにもならなくなってきた。国家としての機能が麻痺しているという気がします。

メンタル面で、「東北大学の学生がボランティアで、大勢来て一所懸命手伝いをしたけれども、学生さん自殺しましたね」と話をしたら、知らなかった。現地でそういう事をなぜ知らないのかなと思いました。

お話を聞くと、御本人は母親を亡くして御自身もメンタルケアが必要であるだろうし、社内でも身内を亡くしたり、行方不明であるとか、辛く悲しい体験をした方は沢山いらっしゃる。どうケアをすればいいのか、本当に分からないので何とか方法を教えていただけませんかという話でした。学者や各方面の先生方それから行政などで、何とかならないでしょうか。これは大きな課題です。

日々、生きていくのに苦しくてということが、大変印象に残りました。

昨晚の会合があった場所は高崎でした。その会場はビルの 10 階で、下を見ると工事の建物があり、イオンが都市型のイオンモールを造るということでした。ああ、イオンさんかと思いつつ、話の中にちらちらと出てきましたから、ちょっと詳しく聞いてみようと思い、「今、イオンさんについてどうお考えですか」と、ちょっと聞きましたら「イオンさんも巨大組織になってから、とてもとても現地の気持ちは上の方には伝わらないんでしょうね」と。もう少し詳しく言うと、現地でのやり方に腹を据えかねて抗議に行ったと言っていました。

「どういうことが腹に据えかねたんですか」と聞きましたら、「我々は天災に対して徹底

的に戦って、みんなの命を守ろうということを前面に出したが、ただイオンさんは徹底交戦というのぼりを立てた。この徹底交戦という意味が分からないから、どういう事かと聞いたら、同業他社に安値攻勢を仕掛けて、圧倒的に売りまくれという号令が内部で出ていたとの事。それはいくら何でもひどいんじゃないのと抗議にいったら、子会社の社長は知りませんでした、申し訳ありませんと謝りました。現場の方と中間の子会社の社長と、その上の巨大組織のトップとでは、まるで意思の疎通がなされていないんだなど、もろに感じたので、それ以上は言わないことに致しました」という話がありました。

組織が大きくなればなるほど、上に気持ちは伝わっていかない。伝え方というのは難しい問題だと感じました。

たまたま昨日は6人でお喋りをしていましたが、前に座っていた方が群馬県のお役所で働いて定年退職をむかえた人でしたので、私は「行政側で3・11はどうだったんですか」と聞きましたら、「粉ミルクが欲しいという要請がたくさんあったけれども、粉ミルクを買いに行ってもどこにも売っていない。そこで考えて、学校に頼んで子供さん達に、家に帰って粉ミルクを調達して欲しいと頼みました。現地は粉ミルクがなくて困っているから、なんとかお願いしますと言ったら、ものすごい勢いで集まりだした。各家庭の粉ミルクが学校に届き始めた。行政としては、こういうことが役に立ったが、物は普通の流通機構から、なくなるんですね」と。

もう1つ、清水建設さんとお喋りをしていたら、清水建設は3・11の時には人手がいるから、全部ほったらかしてもよいから、とにかく人を集めて現地に行けと言ひ、みんなを現地に集めたら、今度は規律が問題なので宿舎を建てた。

マイヤの社長が「清水建設さんは、たくさんお出でいただいて、でもすぐ宿舎を建てて相当規律正しくやっていたそうですけれども、どうしてそうしたんですか」と聞いたら、「全国各地からたくさんの人を集めたので、ルールを決めてやらないと現地にとんでもない迷惑が掛かる事がありうるので」と、言っていました。

清水建設はテレビ会議で全国から情報を取って、人手を集めて送り込んだということですが、いろいろ考えると、それぞれの組織のトップが哲学をもって、現地に行つて自分で直に体験したものを発信する。これに尽きるなと思いました。それを私は黙ってずっと聞いていましたら、大所高所に立つたお話しなどをと言われたので、3つ感じたことを発言してきました。

1つは、組織のトップの力量がもろに出た。

スーパーマイヤは、東日本大震災翌日から物資がどんどん集まってきた。それは個人の人脈で集まった。

あと凄いなと御本人がおしゃっていたことは、本部から離れた各店舗に社長が行くと、情報手段が途絶えている中「お母さん、亡くなったそうですね」と色々な方に言われ、口コミでどんどん伝わっていることに驚いたそうです。

総合支援協定を結びましょうと前に申しあげましたけれども、お互いに総合支援協定を

結ぶのに担保とするものは、トップの人物次第だという感じがします。トップの人脈も必要であるし、力量がもの凄く必要である。それが非常に感じたものの1つです。

2番目は自治体。県はちょっとおいといて、市町村レベルの自治体は、よく機能していたと思いました。

各市町村の役所の総合支援協定が、かなり生きていると感じました。先程の若い警察官が死体を綺麗に洗ってくれた話も、総合支援協定を結んでいる所から来た警察官だということでしたから、日頃からそういうお付き合いを市町村レベルでしているということは相当大きな効果があり、役に立ったと感じました。

3番目は国家レベルになると、日本という国はだらしない。もうだらしない話はいたるところに転がっています。なんとという歪んだ国になったことやらと思います。お金の使い方も酷いことと思いました。

ハイヒールを履いてきた政治家にも呆れましたが、特に地元で小沢一郎さんが信用失墜したことは、今まで日本を代表してきた日本の政治家の正体が見えたように感じました。東日本大震災後にお国入りを長い間しなかった。こういう時こそ駆けつけて先頭に立って欲しいのに来なかった。もうこれで完全に気持ちが離れたということです。先ほどの論語の中で「之に先んじ之を勞すと」とありますが、小沢さんは正反対のことをしたなと感じました。「先頭に立って動いて、国民を労わりなさい」とありますが、小沢さんは「そこに行くといけないから行かないよ」と、逃げたのでは話になりません。

頭が真っ白になったとき、大災害や何かとんでもないものが来たときに、出てくるものは、その本人の哲学だと思います。

「我いかに生きるべきか」これを腹にしっかりおさえている人間でないと、とんでもない事態が生じた時に、沈着冷静に判断し行動することは出来ない。あとは自分を磨くことだと思います。

恒例の質問

- ・今月に入って嘘は比較的つかなかった人

嘘をつく人は閻魔様に舌を抜かれるといいます。二枚舌は政治家の方は多いので、ここはそういう方がいないので良かった。

- ・今月に入って良い日が比較的続いて、良い日ばかりだという人

良い日にするの悪い日にするの心次第ですから、どうぞ良い日になるような考え方をしてください。

・今朝も健康法を実践してきた。または今日の夜は実践するという人

健康法で思ったことは、健康の健は肉体的な健やか。康は精神的な健やかですと、昨日スーパーマイヤの社長さんに言いました。

いろいろ熱弁をふるっていただいたのですが、私は懇親会に最後までいられないから、これで帰ると言ったら一言といわれましたので、大阪の寺子屋サミットの話を行いました。

99歳の誕生日を迎えた伊與田覚先生が、氣になることが1つだけあるとおっしゃいました。第3次世界大戦の始まる危険性を非常に感じています。皆様方の力で止めていただきたいということを一生懸命に言っていました。あとは六中観の「腹中書あり」です。良い書物に出合う。そして、それが腹にずっしりおさまる。そういう哲学をお持ちの方は健康ですし、99歳までいけるという手本を見ましたから、御商売の上でも個人の上でも氣になさったらいかがですかとお話しをいたしましたら、「良いことをお聞きしました」と、一所懸命メモしていました。

紹介書籍

『心魂にひびく言葉』寺田一清編述 致知出版

これは、森信三先生の言葉をまとめた良い本です。

テーマ

「お金の苦勞を知らない人は、その人柄がいかに良くても、どこか喰い足りぬところがある。人の苦しみの察しがつかぬからである」

どうも昨晚の印象が強いから、またスーパーマイヤさんのお話しをします。その方は67歳で、今まで順調に人生を生きてきた方です。

ちゃんと学校を出て会社に勤めて今は社長をやっていて家庭も恵まれて、とにかく順調に人生を歩んでいて、こんなに私は順調でよいのであろうかと思っていた。でもこんなに恵まれた人生でいくのはおかしい。それはそこはかたないと言うのかな、もしかしたら、どこかで何かが起こるのではないかといつも思っていたそうです。

昔から三陸沖地震は高い確率で起こるといわれていたので、このまま順調にいくはずがないという不安感があったから、必死になって社内訓練をし、事前の準備をしていたが自

分の予想をさらに上回ってしまった。

ただ、先程お話ししたように店舗に逃げ込んだ人は 1 人も亡くならなかった。そこを聞いていましたら、大災害時には屋上からロープを使って逃げるために、ロープで下りる訓練、店舗の中に実際に煙を充満させて逃げる訓練や、そのとき壁伝いに廊下を這って歩く訓練を社内で行うという、かなり真剣な訓練をやっている印象を持ちました。

市役所は後で聞くとドアが開かなかったそうです。大地震が発生した時ドアが開かなくなったり、または鍵が掛かっていたり、そういうことを全部調べなくてはいけないんだけど調査していないそうです。そういうことを検証していただくと有難いという話がありました。

今回のテーマである「お金の苦勞」は、やっぱりあると思います。

私は娘が先に亡くなるなんて想像もしていなかったから、これはきつい。身内の不幸や、そういうことを乗り越えていくと、だんだん判断の基準が深くなるし、沈着冷静に行動も出来ると思います。自分が本当に困った、辛い、苦しいという苦勞は、やっぱりしたほうが良いかなと感じます。

今、私が瞬間的に思っていることは、身内の不幸を体験した人は、その部分に関しては人の苦しみを察することが出来ると思います。やはり察する気持ち、能力は必要だなと思います。

論語の視点

安岡正篤先生の『六中観』と、あわせてお話しをします。

「子路 政を問う。子曰く、之に先んじ之に勞すと。益を請う。曰く、倦むこと無かれと」
これは大災害が起こったということで考えてみましょう。

大災害が起こったことをベースにして考えれば、先頭をきって良いと思うことをどんどん実行して手伝ってくれた人、社員の人達、国民の人達に対しては労わりを持って接しないといけない。そういう目で見るとそれぞれ合格、不合格が出てきます。

前にも申し上げましたけれども、被災地にお金は少々しか回らなかった。これは何が悪いのか。政治家の哲学の貧困、仕組み上の問題だと考えます。

『六中観』は B29 が飛んでくる最中、いつ命がなくなるか分からない状況で、安岡正篤先生が後世に遺言を残したいという思いから出来ました。毎日 1 日 1 回世の中のことをよく見て、次の世代に伝えたいと思う話を残しておられました。その聞いた中で敗戦だとい

うことも見えた。

その中でも私が楽しいなと思う部分は、あれほどの先生でも精神的な部分で空虚になる。心が虚ろになる。世俗と交わって疲れたという時に『六中観』を密かに取り出してじっくり味わう。自分で自分の心の傷を癒す時に、この『六中観』を使っておられたんだなということ、私は親近感をもって感じます。

その中の「忙中閑あり」。忙しいという人は、世の中に沢山いますよね。

スーパーマイヤの社長さんが、あの震災のときでも「至福の時間がありました」と、言っていました。私は「至福の時間というのは何ですか」と聞きましたら、「もうどうしても身動きがつかなくて病院で点滴をしてもらった。そうしたら2時間だけ横になっていられた。その時が至福の時間で色々な物事を考えられて、整理が出来たので有難かったと病院で言いましたら、1週間点滴をする予定でしたが、そういうことなら10日にしましょうと言われ、至福の時間が3日延びた」と言っていました。

大震災のときに2時間ほど点滴をする時間があった。これが至福の時間であると言っています。それこそ本当に凄まじい忙しさの中に、やっと見つけた閑。貴重な時間だと思います。組織のトップの力量が、今、私は問われているんだと言い聞かせて一生懸命に取り組んだそうです。

あと「忙中閑あり」で思ったことは、政治家は自分の時間を刻んで人に会ってあげると思っているんですね。あれは不思議です。全部が全部そうではないと思いますが、私が少なくともお会いしている政治家の方々は「お会いしたい」と言うと、「じゃあ、いついつの何時から何時何分です」と、それは普通のやり方ではありますが、ただ、自分の時間を切って相手に会ってあげるとは恩恵であると信じ込んでいる感じがしました。あれは不思議。

比田井副理事長、そんなふうに感じませんか？

ー感じます。お医者さんみたいに、そうとう時間で切りますね。

時間を切るのも良いです。ただ、お医者さんは会ってあげるとは、あなたに恩恵を与えているという態度をあまり取らないから、仕事としてやっているように感じます。

政治家の人は、何か結果をやっぱり出さないといけないと思うから、自分が相手に会ってあげることが、相手に与える恩恵であると捉える頭の構造に、いつの間にかなっているという感じがしてしょうがないんです。私は時間泥棒だと思っています。

『六中観』の中で一番必要なものは「腹中書あり」です。これは哲学です。「意中人あり」は、自分が困ったな、または、こういう大事業したいと思った時に、人の名前が浮かんでくるのであれば「意中人あり」は成功です。「壺中天あり」は、自分が没頭できる時間や

何か趣味に打ち込む時間が持てると良い。そういう時間と場所があるかどうか。

「忙中・苦中・死中」これらは皆それぞれの大変な思いをどこかでしていれば、人の苦しみを察することができるという今日のテーマと繋がります。

『六中観』を、どうぞじっくりお読みいただいて、御自分のものにされると良いでしょう。

時事評論

移動中に新聞を買おうと思うと、つい産経新聞を買ってしまう。木内顧問がサンケイ、サンケイと言っているからでしょうけれどね。

今、メディアはオーナーが総崩れだそうですね。いわゆる創業系なるものです。

創業者達は一生懸命に思いを込めて創業したのだらうけれども、どんどん駄目になっていく。残っているのは読売だけ。読売も今は頑張っているが、オーナーが消えてしまったら、それでおしまい。おしまいと言うのは会社が潰れるということではなくて、創業の思いが途絶えるということだと思います。

創業の思いは途中で消えます。フジサンケイグループもどんどん悪くなってきています。今、産経新聞を手にとっているから、そんなふうに言いましたけれど、どこの会社でもトップはきちんとした哲学を持っていないと、やはりそのうち途絶えると感じます。

そういう点で見ますと、今日の新聞を見た中で、もうちょっと申し上げなければいけない事は「政を問う」部分です。

政を問う時には、何か大きな出来事があり、それをどう裁いたかという所が政に見えるけれども、それだけではいけません。何事もなく平穏無事に淡々と暮らしていける世の中が続いていけば良い。

今朝の産経新聞で、おやおやと思ったのは「退職自衛官を建設業に」と書いてあります。自衛隊の人が退職して、建築会社に勤めるのは駄目だといっていました。今度は良いということになった。これは人手不足で、建設業も倒産が少しずつ始まっていますから悲鳴をあげているんでしょうね。

建設業の人手不足でかなり昔の事を思い出すと、群馬県の上場企業の建築業者が人手不足のときは、刑務所に行って人を借りてきて、仕事が終わったら、また刑務所に返した。それで人手不足を何とかやり繰りしていましたという話がありましたから、こういう人手の集め方というか、苦肉の策といいながら、姑息な手段をしていると見えます。

それから号泣県議辞職と書いてあるけれども、これは何なんだと思って見たら、いろいろ書いてありますね。出張旅費を説明できないから、途中で説明していて号泣した。私もアホだからね、「号泣した」って、どんなふうに泣いたのかと思って、わざわざテレビを点

けて、その号泣のところだけを見たんですよ。そうしたら、こんな泣き方をするのかと思いました。我慢しながらポロッと涙が一滴垂ればいいものを、何なんだいこれかと思っ
て見ていたら、新聞には書いていないことを本人が喋っていましたから、そこだけ聞いて
しまった。

本人が喋っていることは、出張旅費を 600 万かな、使っているけれども、だいたい行っ
ている先は 4 ヶ所です。その 4 ヶ所はどこですかと聞くと、忘れましてしょう。あと本
人は、誰に会ったかは言えません。誰に会ったかを言うとその人に迷惑もかかるし、本
人から絶交であると言われていたから、絶交された上にまた迷惑をかけてはいけないから、
誰に会ったかは申し上げられません。

最初は忘れた。その次はそういう言い方になった。語るに落ちるようなことを言ってい
る。大体、誰でも想像がつくようなことを言っています。

今のモラルは、どうなっているのか。凶らずも、その時代の新聞は、その時代の世相が
映ってくる。10 年後、20 年後に見ると感じます。

新聞の記事を 10 年前と比較するとよいでしょう。それから写真もごく当たり前の写真を
撮って、それを 10 年後に見れば、また「おやおや」という部分が出ますから、歴史を見る
つもりで新聞を御覧になるとよいでしょう。

それからもう一面、今日の新聞で「中国が食肉を買い漁る」とありますが、ここで引っ
かかったのは、中国の食料安全保障をめぐる歴史的な大転換が最近あったという所です。

自給する穀物を小麦と米に絞り込んだ。豚、牛の加工肉の輸入戦略を食糧安保の両輪と
する現実路線に軌道修正したと書いてあります。

自分の所で取れるものは絶対離さない。他所から買い漁れるものは買い漁る。中国が膨
張拡大路線をひた走りに走っているという所が見える。

新聞を見るとき、歴史的に見るのと、あちらこちらの立場に立って見る必要があります。
最近思うことは、中国の立場、韓国の立場、北朝鮮の立場、台湾の立場、香港の立場。つ
いでにもうあと 1 つ入れると、シンガポールの立場かな。それぞれの首相になったつもり
で新聞を御覧になると、ハッと思うような部分が出て来ると思います。

時間が参りました。これで終了にいたします。有難うございました。